

柑芦会 本部 ニュース

第31号 2022. 2. 1.



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

—そして ここから—



1. 支部だより

神戸支部

1月15日 神戸支部新年会開催

神戸支部長 平林義康（大20）

神戸支部では去る1月15日（土）2年振りに新年会を開催しましたのでその概要をご報告いたします。

会場の生田神社会館には、柑芦会会長、東京、東海、大阪各支部の支部長や他の幹部も含め、大学4期の大先輩から大学41期の若手まで27名の会員がご参加になりました。支部長挨拶の後、会長、各支部の幹部のご紹介、初参加支部会員のご紹介がありました。

その後、和歌山大学経済学部創立100周年を記念して、講釈師・旭堂南海師匠に新春特別講演と銘打って「講談・和歌山大学物語」をご口演頂きました。4年前の新年会では物語の前編をご口演頂きましたが、この度は高商設立当初の裏話から現在に至るまでの100年の歴史を一気に活き活きかつユーモアたっぷりにご口演頂き一同大いに楽しませて頂いたところです。

引き続き、今や恒例となっております、和太鼓集団「ホッと太鼓」による新春お祝太鼓演奏で懇親会前の空きっ腹に大いに刺激を頂きました。

懇親会は、大学4期の野崎様の乾杯のご挨拶で始まりましたが、時節柄、食事および飲み物は、ビュッフェスタイルではなく、各々に配膳頂く方法をとりました。

そして、大学7期の上原様の閉会のご挨拶で、12時から始まった新年会は14時30分に名残惜しくもお開きとなりました。

なお、当初予定しておりました、現役学生のプレゼンは、出席予定者の中にコロナ感染者の濃厚接触者がいることが直前に分かり、残念ながら取りやめとなりました。

この度の新年会の参加者リストには氏名、卒業期の他に現在お住まいのエリア（市・区名）、出身高校、所属ゼミ、クラブをも記載したものを配布しました。在学時代はお互い面識がなかったものの名簿で初めて同期とわかった方、同じゼミの先輩後輩であることがわかった方等々、まるで旧知の間柄であるが如く会場のあちらこちらから談笑の声が聞こえてきました。

更に、最終的な参加者は27名でしたが、出欠回答を頂いた約100名の方々のメッセージを「近況報告等」として一覧表にして配付させて頂きましたところ、久しく会っていない同期の方の消息が分かって良かった等のお声を頂きました。

新年会に限らず支部総会でも、会員同士が親しく歓談出来る工夫を、今後とも試行錯誤しながら実施していきたいと思えます。



2. 寄稿①



経済学部 准教授

岩田 英朗

✉ 授業「卒業研究」での一コマ

DX (Digital Transformation) 導入が社会で強く叫ばれる現状において、本学でも「授業を含むあらゆる業務での電子化・IT化」が進行しています(参照：[和歌山大学DX推進計画](#))。COVID-19パンデミックの影響で2020年度前期は、ほぼ全ての授業がオンラインで実施されました。ご承知の通り本学は、2017年度新入生よりパソコン必携化 (Bring Your Own Device) 制度を導入しています。それに併せ、全ての在校生がMicrosoft社のMicrosoft365サービスを楽しむ環境の整備を進めてきました。パンデミック下では既に、各種クラウドサービスを活用したオンライン授業が実施可能であったのが不幸中の幸いでした。また、複数の教員有志によって Moodle と呼ばれるオープンソース e-learning プラットフォーム導入も進めていたため、Moodle と Microsoft365 の併用により状況対処しました。

しかし、情報学が専門であり一定の経験・知識があった私でも、短期間での授業オンライン化(授

業準備・授業実施・成績評価等)は大変な作業でした。資料作成や授業実施時のノウハウ蓄積に多くの時間・労力が必要となりました。全教員が足並みを揃える必要があったため、教員個々はもちろん、各種業務をサポートして下さった職員の皆様のご苦労は大変なものだったと推測します。「今回の経験で得たノウハウを整理・蓄積し、更なる DX 推進に活用する」が今後の課題です。

年度末は卒業論文の季節です。手書きであったものがワープロ作成となって久しいだけでなく、用紙サイズが B5 から A4 となり、時代の変化を感じたものです。更に今では、経済学部でも PDF 形式による電子提出となっています。生協で表紙と裏表紙を購入し、パウチで穴開けして製本というのも今は昔の風景となりました。

全学的なペーパーレス化推進もあり、授業資料等の配布も電子化が推奨されています。しかし、紙と鉛筆(黒板にチョーク/白板にペン)というレガシー媒体の優位性を再認識する場面もあります。特に卒業研究指導に際しては、頭の中のイメージを白板にペンを使ってその場でビジュアル化し、説明する行為に勝るものはありません。私はプロジェクタで白板に投影した学生作成電子資料に、ペンで書き込みをしながら指導する形態を好んでいます。この方法により、学生の学修・理解が強く促進されると感じています。もっとも、白板の記載を学生はスマホで「パシャ」するだけ、というケースも多いですが...

私自身はいわゆるガジェット好きで、最新の IT 機器を買っては使うのを趣味としています(使いこなせているかどうかは別です)。一方で、自動車運転免許取得から現在まで、日常的に MT 車を愛用しています。たまに AT 車を運転すると、操作方法がわからず緊張します。こういった不合理こそが、人間の本質なのかもしれません。(2022.01.16 岩田英朗)

2. 寄稿②



和歌山大学と私

香川支部長 島田新市 (大22)

香川出身の私が和歌山大学に入った理由の一つは経済学部でもコンピュータが学べるという事でした。杉浦一平先生のゼミに入れていただき 3、4 年生時は淀屋橋の三和銀行へ(その後江坂の東洋情報システムへ)通学しプログラミング実修等の日々でした。ゼミ生は皆優秀で私にとってはしんどい面もありましたが、先生も奥様も気さくでゼミは家族的な雰囲気でしたし、また風光明媚な地でのゼミ合宿なども貴重な思い出となりました。

もう一つ大学時代の思い出は弓道部です。4 年間を通して、私は最も的(まと)に優しい部員で通

しましたが先輩、同期、後輩にも恵まれ信州合宿や夜間練習など、卒業後ほぼ半世紀を経た今も鮮明に思い出されます。

実はこのあつという間の4年間の大学生活がその後の人生でどれだけ私を支えてくれる事になるのか当時は思いもしない事でした。

まず、就職においては、あまり面接映えしない私でしたが、コンピュータと弓道をアピールする事で、面接官も多分、「こいつ頼りなさそうだけどコンピュータだけは勉強したみたいだし、一応体育会弓道部を4年間続け四段らしいからまあ採用してみるか」と言う事で志望する地元の四国電力に入ることが出来たのではないかと考えております。

入社後も、もともと人間関係は苦手意識があった私ですが、ゼミや部活で十分予行演習が出来たのか会社生活での人間関係に悩む事はありませんでした。

仕事も当初はコンピュータ部門でした。ゼミに比べると仕事って簡単だなあ等と思うなど若気の至りもありましたがやはり余裕を持って仕事を楽しめたことはゼミのおかげかもしれません。その後30歳でコンピュータとは正反対のアナログ世界の人事労務部門に異動し68歳まで仕事できたことはこの上ない喜びです。

今は、労働関係で国、県の仕事を月1、2日やらせて頂いておりますが、登山とボウリングが私の日常となり体力低下に抗う日々を過ごしております。

そして柑芦会を通じて先輩方のご活躍を拝見し自分も少しは見習いたいなどと思うこの頃です。

大学時代のいろいろな人との出会い、経験が自分を支えてくれたのだと言う事も今になって分かり、大学、ゼミ、部活、先輩、後輩、友人の皆さんに改めて感謝です。

和歌山大学と柑芦会会員皆様方の益々のご発展をお祈り申し上げます。



S49.3 ゼミ風景 (筆者左から2番目)



S48.8 信州護国神社合宿 (筆者右端)

4. 事務局より

第12回香村賞審査会開催

第12回香村賞の審査会が去る12月17日(金)13:00より産学連携イノベーションセンターで行われました。一次審査を通過した11件について、応募学生によるプレゼンテーションが行われました。審査委員による審査の結果、入賞者は次の通りです。

「ビジネスアイデア部門」

・優秀賞（賞金 10 万円）

プラン名：「長期避難自粛ケア商品」

経済学部 3 回生 坂本光咲、藤吉奈都美、小島夢輝

・準優秀賞（賞金 7 万円）

プラン名：「顔と名前の一致アプリ『覚エ〜ル!』」

経済学部 3 回生 池田佳菜子、土橋杏実、龍田千里菜

・審査員特別賞（賞金 5 万円）

プラン名：「愛媛の蛇口みかんジュースに対抗！和歌山のみかんガチャ」

経済学部 2 回生 滝下連太郎、塚本結基

「起業実践部門」

・敢闘賞（賞金 5 万円）

プラン名：「日本人海外大学生による英語 4 技能特化 Academy」

経済学部 2 回生 松田凌弥

（米国）Earlham College Global Management 2 年生 廣瀬百葉

「企業賞」

○株式会社ラック

・LAC 賞

プラン名：「進化し続ける観光情報プラットフォーム sarutabi.co」

観光学部 2 回生 峪 愛麗

・コラボ賞

プラン名：「アバターゲーム一体型素人ハンドメイド作家アプリ「パトロニア」

教育学部 2 回生 見浦 響、システム工学部 2 回生 森田琴葉

プラン名：「地域も飼い主も幸せになる犬用のゴミ箱」

経済学部 3 年生 原梶壽己、赤松紗弥、角野花梨

○紀陽情報システム株式会社

・努力賞

プラン名：「進化し続ける観光情報プラットフォーム sarutabi.co」

観光学部 2 回生 峪 愛麗

・努力賞

プラン名：努力賞「E-V プロバイダー」

経済学部 3 回生 森あかね、栗岡寛明、杉本陽哉、高野蒼大



会長挨拶と発表風景



表彰する伊東学長

■ 読者の皆様からの「投稿」もお待ちしています！

(注)編集の都合上、次号に回る場合や文字数の調整をさせていただく場合があることをお含みください。

和歌山大学経済学部同窓会 柑芦会 本部 事務局
〒540-0012 大阪府中央区谷町 4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町 207 号
Tel:06-6941-4986 Fax:06-6947-7925 E-Mail: honbu@kourokai.org



<https://dousoukai.site/kourokai/>

フェイスブック
「柑芦会オフィシャルページ」
(非公開グループ)

「柑芦会ホームページ」
(公開サイト)
